

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュースレターNo.15 (2013
年 11 月号) ◆

急に寒くなり、雪も降る所もあるこの頃ですが、皆さまにおかれましては、いかがお過ごしでしょうか。このニュースレターとともに、「Intelligence」会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> とあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【第 80 回 20 世紀メディア研究会】(11 月 9 日午後 2 時半-5 時)

・山本英政「アメリカにおもねる日本、かぶれる若者---「オーミステイク事件」をとり上げて---」：1950 年 9 月日本大学の職員給料を運ぶ車が襲われ、現金が盗まれる事件が発生、犯人の 19 歳の少年山際とその恋人 18 歳が逮捕され、その時発した「オー、ミステイク」という日系二世気取りの発言が、「アプレゲール」という語とともに流行した。この事件の背景にある日系二世や米兵のイメージを、プランゲ文庫所蔵資料から探って論じた。

・百瀬孝「1948-49 年、対馬をめぐる新聞報道」：対馬を長崎県の所属となっている対馬を福岡県に転県するという問題と、韓国からの対馬割譲返還要求問題という、占領中の同時期に論じられた対馬をめぐる二つのトピックに関する報道を、全国紙及び地方紙『対馬新聞』などの記事で実証的に比較検討した。

・長與進「大島浩のブラチスラヴァ訪問---」：戦後 A 級戦犯になったことでも知られる大島浩は、日独伊三国同盟を推進した外務官僚で、ベルリンの駐独大使だった時に、1939 年から 1945 年の間に存在した「独立スロヴァキア国」が、日独伊三国同盟に加盟し枢軸国側となった際に、その初代公使を兼任で務めた。ヒトラーの衛星国と言われた独立スロヴァキア国には、大島公使が何回か訪問した他、満州国の公使リュ・イ・ウエンも駐在した。その興味深い秘史を、主に『スロヴァーク』というスロヴァキアの新聞から明らかにした。

※なお、研究会当日に配布されたレジュメは、会員ホームページにアップされています。
<http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> をご覧下さい。(閲覧は『Intelligence』の購読会員に限定されています。)

●次回の20世紀メディア研究会は、12月7日(土)で、藤元直樹さん、栄元さん、阪本博志さんがご報告の予定です。その後は、1月25日(土)、3月29日(土)、4月26日(土)を予定しております。なお、ご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

【気になる番組・展示会】

11月5日(火曜日)夜7時30分からのNHK総合「クローズアップ現代」でNPO法人インテリジェンス研究所と早稲田大学20世紀メディア研究所が全面協力した、占領期の郵便検閲に関する番組が放送され、大きな反響を呼びました。検閲官に関する新たな手ごかりも寄せられているようです。JICCライブラリー収蔵資料展「写真雑誌の軌跡 PartII---写真企業誌編---」がJCIIクラブ25で12月3日-25日に開催されます。また、同期間に「日本工房」が見た日本---1930年代---がJCIIフォトサロンで開催されます。「2013 にいがた 地域映像アーカイブ・クインテット」も11月から12月にかけて開催中。詳しくは、http://www.human.niigata-u.ac.jp/event_info/4703/ を参照。

【気になる新著紹介】[敬称略]

孫旭培著、高井潔ほか訳『中国における報道の自由 その展開と命運』(桜美林北東アジア総合研究所)は、中国における報道の自由に関する理論と矛盾を、建国前の中国共産党から現代まで論じた著作。李素テイ『日本人を対象とした旧「満州」中国語検定試験の研究』(文化書房博文社)は雑誌『善隣』などによって、満州での中国語学習者を調査してまとめた研究書。志村三代子『映画人・菊池寛』(藤原書店)は、作家・出版人として知られる菊池寛によるメディア・ミックスの全体像を明らかにした意欲的な著書。林怡蓉『台湾社会における放送制度』(晃洋書房)は、2.28事件にも言及した制度史の研究書。NPO法人放送懇談会『放送批評の50年』(学文社)は、各時代の放送に関する代表的な論考を集めた本。坪井睦子『ボスニア紛争報道---メディアの表象と翻訳行為』(みすず書房)は、国際報道における翻訳の問題を分析した研究書。『大震災・原発とメディアの役割』(新聞通信調査会)は、ネット報道や韓国・中国・タイにおける報道の分析までを含む分厚い研究報告書。

[11月19日付文責：土屋礼子]